コーヒー ブレイク
Coffee Break

# 囲碁と私と法曹界

the game of go

会員　徳岡 寿夫 ＜24期＞

大学生のときから，囲碁に親しみはじめて，学部を聞かれると「碁（ご）学部」と答えていた。

昭和47（1972）年に東弁に入会し，すぐに東弁会員の囲碁会である「第一倶楽部」に入れていただいた。その頃は，囲碁室は，旧東弁会館の新館２階に一室を独占的に使用し，事務員も倶楽部で雇用していた。

まもなく，第一倶楽部の庶務担当となり，その頃から囲碁会から離れられないでいる。

現在，東弁会員の囲碁会は，「棋友会」と称しているが，「第一倶楽部」が閉鎖的な集まりであったことを反省し，東弁会員の囲碁同好者が会員になりうるように名称変更を行なった経過もある。

昭和50年代に入ると経済は，ほぼ右肩上りであり，各弁護士にもそれなりのゆとりがあったように思われる時代であった。囲碁大会に参加される人数も当時は東弁のみの大会でも毎回40名を越える参加者があり熱気があった。

この時代，裁判所における囲碁熱もかなりの盛り上りを見せており，当時，寺田治郎最高裁長官を筆頭としてかなりの囲碁集団を形成していた。

裁判所の囲碁会との交流は，従来より一弁囲碁会が定期大会を行なっていたが，一時的に途切れた時期があった。そんな折りに，わが国の法曹三者が囲碁を通じて一堂に会し，相互理解を深めることが，どれほど素晴しいことかとの理想に火がついた。昭和55（1980）年11月23日に第1回法曹囲碁大会と銘打って，市ヶ谷の日本棋院において寺田会長の下に盛大に幕開けをした。

その後，法曹囲碁大会は，毎年11月23日（勤労感謝の日）に行なわれてきており，毎回約150名の法曹が参加し，昨年は，第25回大会を迎えた。

囲碁は，古くは中国に発し，わが国に伝来した後，信長，秀吉，そして家康らの保護の下に飛躍的な進歩を遂げた文化である。しかも近年は，わが国から中国，台湾，韓国はもとより，ヨーロッパの各国，北米，南米へとかなりの広まりを見せているのが実情である。

反面，わが国における囲碁人口は，近年はむしろ減少傾向にあるようだ。マンガ「ヒカルの碁」の人気により子供達に一時的に囲碁人気が起きて，小学校や中学校の部活でも囲碁が行なわれるようになったが，未だ定着するには至っていない。

ところで，東弁会員は，弁護士会館の４階にある第２会員室の奥の部屋に囲碁・将棋の設備が整えられていることをご存知だろうか。

この部屋が近年，会員の利用が少ないとのことから用法の見直しが，現在，会館委員会で取り上げられている。

このごろの弁護士会の会務は，なかなか難しい。囲碁・将棋を楽しんで，少しは頭をやわらかくしたらいかがかと思う。

囲碁には，人との交流あり，これを「手談」という。囲碁は洞察力を高め，忍耐力を養い，礼儀を重んじる。

毎月の第１火曜日及び第３水曜日の午後６時から棋友会の定例会がありますので，同好者は是非参加していただきたいと思っております。特に初心者の方を歓迎いたします。